農村地域における壮年期の人口移動

Migration in the Prime of Life at Rural Regions

○林　直樹*　　齋藤　晋*　　高橋　強*
Naoki HAYASHI　Susumu SAITOH　Tsuyoshi TAKAHASHI

1．はじめに・人口移動の把握

著者らは，若年層の人口移動（15～19 歳が 25～29 歳になるまでの人口移動），すなわち，就職や結婚による急激な人口移動を取り上げて，分析を進めてきたが，「U,J,I ターン」の促進のための対策を考えるためには，壮年期の人口移動（25～54 歳が 5 年後に 30～59 歳になるまでの人口移動）にも注目する必要がある。本稿の目的は，壮年期の人口移動の傾向を明らかにすることである。

分析対象地域は京都府下 44 市町村（市町村単位）である。壮年期の人口移動は，以下の手順で求める（男女別）。第一に，年齢層別人口(注 1)と生命表(注 2)から，「n 年から(n+5)年」の「25～29 歳が 30～34 歳になるまでの純移動数」，…，「50～54 歳が 55～59 歳になるまでの純移動数」を計算して(1)，それらの和を求める。第二に，それを「n 年の 25～54 歳の人口」で割る。以下，この結果を「n 年から(n+5)年の『壮年期の純移動率』」と記す。純移動率が高ければ，転入の傾向が強く（正であれば転入超過），純移動率が低ければ転出の傾向が強い（負であれば転出超過）。なお，参考のために若年層の人口移動も併記するが，前稿(2)で記したように，大学進学等に伴う一時的な転出入の影響を取り除くために，期間は 10 年間となっている（15～19 歳⇒25～29 歳）。こちらは，「n 年から(n+10)年の『若年層の純移動率』」と記す。

2．壮年期の純移動率と若年層の純移動率

図 1 と**図 2** は，1995 年から 2000 年の壮年期の純移動率であり，前者が男性，後者が女性である。男女ともに，府の中部で転入超過（純移動率が正）が目立つ。中部は，農村地域が多く，就業や利便性の面でやや不利であるにもかかわらず転入超過が多い。ただし，丹後半島や府南東部は，中部同様に農村地域が多いが，転出超過も少なくない。

参考のため，**図 3** と**図 4** に，1990 年から 2000 年の若年層の純移動率を示す。ほぼ全ての市町村が転出超過であり，中部，丹後半島，府南東部も，大半が「純移動率-0.2 以下」という転出超過である。以上より，中部の場合，若年層の人口移動（就職や結婚）により一気に転出して，その後，少しずつ回復していると考えられる。しかし，丹後半島や府南東部では，転出超過が続いている。

前述の純移動率の差異を，(1)後継者として，両親の世話をする，自分の家や土地を守る，(2)広い住居空間や自然環境を求めて一等の動機の有無だけで説明することは難しい。それらの動機に関して，中部と丹後半島・南東部に大差はないと思われるからである。そうなると，もっと根本的なもの，すなわち，(3)その地域で生活ができるかどうか—が明暗を分けていると考えられる。

---

*京都大学大学院農学研究科, Graduate school of Agriculture, Kyoto University　純移動率，壮年期

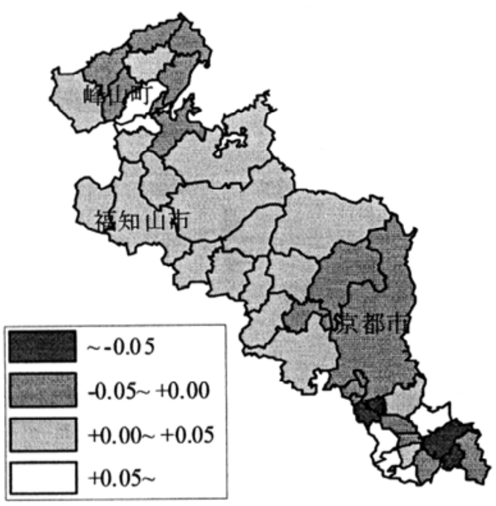

図 1　壮年期の純移動率（男）
Fig.1 The Prime of Life, Male

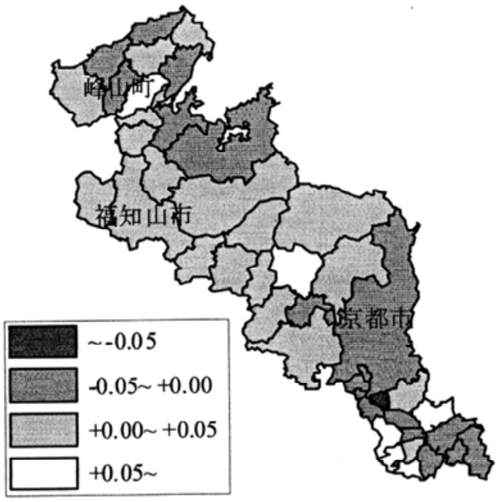

図 2　壮年期の純移動率（女）
Fig.2 The Prime of Life, Female

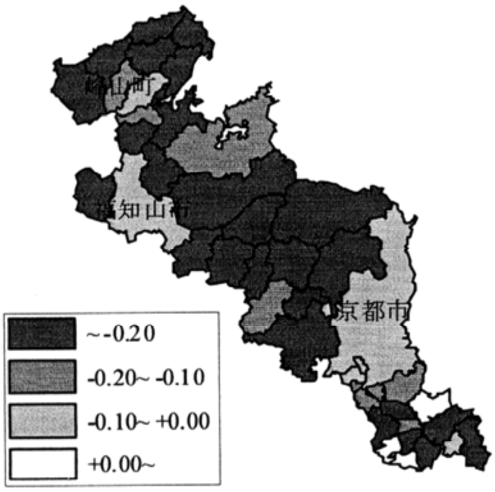

図 3　若年層の純移動率（男）
Fig.3 Younger Generation, Male

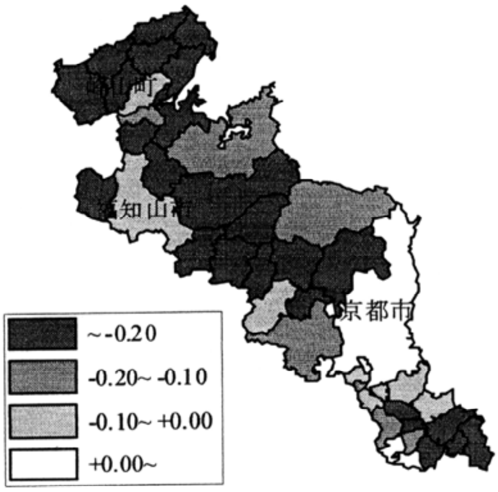

図 4　若年層の純移動率（女）
Fig.4 Younger Generation, Female

現段階で考えられることは，生活を支える就業や生活利便性の問題である。丹後半島の場合，地元での就業機会は少なく，京都市や大阪への通勤も難しい。近くには，峰山町や福知山市等の都市があるが，京都市や大阪と比較すると著しく小規模であり，就業機会も少ない。それらの結果，転出超過となっているのではないだろうか。

3．おわりに

以上，本稿では，壮年期の人口移動の傾向等を明らかにした。今後は前述の仮説を確認するための情報収集と分析，就業以外の問題に関する考察を進めたい。

(注 1)国勢調査。年齢不詳は各年齢層に按分（男女別）。(注 2)全国の生命表を使用。'95 年に関しては，阪神・淡路大震災の影響を除去した場合の生命表を使用。

(1)石川晃（1993）:『市町村人口推計マニュアル』，古今書院．(2)林直樹・齋藤晋・高橋強（2003）:「農村地域における若年層の人口移動」平成 15 年度農業土木学会学会大会講演会講演要旨集，pp.748-749.